

第1回相模原市学校給食センター整備・運営事業等選定委員会

日時：令和5年10月16日（月） 午後1時30分～午後3時

場所：相模原市役所 第2別館5階 教育委員会室

出席委員：（敬称略）

勝田 悟 東海大学大学院 人間環境学研究科 教授

川崎 一泰 中央大学 総合政策学部 教授

縄田 敬子 相模女子大学大学院 栄養科学研究科 准教授

見瀬 賢悟 公認会計士

吉川 徹 東京都立大学大学院 都市環境科学研究科建築学域 教授 委員長

1. 開会
2. 委員紹介
3. 委員長の選任

相模原市学校給食センター整備・運営事業等選定委員会設置要綱第5条の規定に基づき、委員の互選により、吉川委員が委員長に選任された。

4. 議題

（1）中学校給食全員喫食推進事業について

事務局より中学校給食全員喫食推進事業について説明を行った。

（2）学校給食センター整備・運営事業について

事務局より学校給食センター整備・運営事業、学校給食センター整備・運営事業 実施方針(案)及び、学校給食センター整備・運営事業 要求水準書(素案)について説明を行った。主な意見は以下のとおり。

（委員）アレルギー対応は、施設規模から考えると対応すべき食数が多くなり、バリエーションも多様になると思うが、どのように対応する考えか。

（事務局）本市の学校給食では、給食に使用しない食品を3品目指定している。その他については、学校ごとに除去対応の対応品目を設定している。中学校給食でも3品目不使用を踏襲しつつ、それに加えて4品目を対象として除去食を提供したい。また、これに対応したアレルギー対応食専用室を設けることを要求水準書案に示している。

（3）事業者の選定方法について

事務局より事業者の選定方法について説明を行った。主な意見は以下のとおり。

（委員）次回の委員会で落札者決定基準を決めることになるが、要求水準のうち、何を評価するのか

を整理すべきではないか。

(事務局) 要求水準は最低限の基準である。事業者はその基準を満たしているものを提案するのが前提であり、それ以上の部分をどのように評価するかが重要であると考えている。

(委員) 行政的な視点では、コストを削減することも目的のひとつになると思うが、コストを過度に減らすと安全性の低下などが懸念されるため、バランスを取ることが重要となる。

(委員) 提案で評価すべき内容としてどのような想定があるかについて、委員の皆様の意見も伺いたい。例えば、建築施設であれば30年後の状態を想定した提案や、昨今の情勢を踏まえた工期上の工夫、地場産木材等の使用なども評価対象になると考える。また、周囲の景観との色彩調和に配慮するなど市の景観条例等の理念との整合性や衛生面等への配慮も評価に値する。

(委員) 調理に関しては、温かくておいしいものを提供できるかがポイントではないかと思われる。安全安心以外の品質に係る部分や食育については、重要な評価の視点ではないか。

(委員) 配送についても、どのようにすれば温かく配送できるか、食育に関しても、子どもたちがどのような体験ができるのかが視点になる。ただし、より良い提案を求めて加点評価の対象とした場合にコストが増えることも踏まえて検討する必要がある。

(4) その他

事務局より相模原市学校給食センター整備・運営事業等選定委員会設置要綱の第5条4項に規定されている委員長代理について、川崎委員の推薦があり、全会一致で了承された後、今後の予定等について説明した。

5 閉会